

質問通告・内容一覧表

議会傍聴者用

質問順	質問議員	通告の標題・内容
1	狩野正雄	<p>◎ 基幹産業への支援策は</p> <p>農業情勢では、飼料や肥料の高騰、牛へのサルモネラ症の発生など、農業者はその対策にあたっている。</p> <p>体力の弱い子牛がサルモネラ菌に感染すると死亡するケースがある。</p> <p>病気の検査には1頭あたり4000円の費用と、治療にも高額な薬代がかかる。</p> <p>基幹産業をどのように守り、発展させるか、関係機関がどのように連携して取り組んでいるか。</p> <ol style="list-style-type: none">1 国・道などの農業（畑作・酪農・畜産）への支援策について町にはどのような情報が伝えられているか。また本町の支援策は。2 町内牧場においてサルモネラ症について、関係機関がどのように連携して対策や情報共有しているのか。3 全国のニュースで注意の喚起があった鳥インフルエンザなども含め、近隣住民や旅行者などが注意すべき点は。

質問順	質問議員	通告の標題・内容
2	山口優子	<p>◎（１）家畜伝染病（牛サルモネラ症）の状況と防疫対策は</p> <p>現在、町内牧場で牛サルモネラ症の発生が複数件あり、収束していかない状況にある。</p> <p>サルモネラ症の症状が悪化すると死亡することもある。</p> <p>牛サルモネラ症は、清浄化するまで数か月かかることが多く、牧場主には消毒・検査などの仕事が増え、肉体的に疲弊し、大きなストレスがかかる。また、牛の移動制限や出荷制限に加え、陽性牛の淘汰等、多大な経済的損失となる。近年、酪農家は、国からの生産抑制がされ、思うように牛乳が搾れない中、飼料、肥料、資材、燃料の高騰で利益がほとんど出ないような状況である。</p> <p>ここ数年の町内における牛サルモネラ症の発生状況と推移について伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 牛舎の消毒作業にかかった日数と述べ人数はどのくらいか。 2 感染予防・防疫対策として、さらなる支援が必要と考えるが。 <p>◎（２）役場、図書館、鹿追高校にエアコンを設置し、早急に熱中症対策を</p> <p>ここ数年、毎年猛暑に見舞われ、特に今年は災害級の暑さで北海道内でも、熱中症で多くの方が病院に運ばれ、亡くなる方がいた。</p> <p>役場では暑い中で仕事をすることは集中力や仕事の効率が下がり、さらに頭痛やめまいなど体調不良にもつながることから住民サービスの低下となる。</p> <p>労働安全衛生法上、雇用主には「適切な熱中症の予防対策を行い、従業員が熱中症にならないよう労働環境を整える」という安全配慮義務があり、また、役場は指定避難所でもあるので、早急に対策をしてほしい。</p> <p>鹿追高校では、保健室とパソコン教室にしかエアコンがついておらず、35度を超えそうな日は授業を午前中で終わらせるなどの対応をしており、エアコンの必要性が高い。</p> <p>また、町民の熱中症対策は、町民が暑さから逃れるため、図書館などの公共施設にエアコンを設置し、クールスポットを自治体が提供するべきである。命に係わる問題なので早急に取り組んでほしい。</p> <p>すべての公共施設にエアコンを設置するのが望ましいが、特に、役場、図書館、鹿追高校の3つは緊急性が高いと思うが、町長の考えは。</p>

質問順	質問議員	通告の標題・内容
3	佐々木康人	<p>◎ 重層的支援体制整備事業について</p> <p>地域共生社会の実現に向け、貧困や介護、孤立などに対応する市区町村の相談支援体制を強化する社会福祉法が令和3年4月1日に施行された。</p> <p>背景には、日本の福祉制度が1980年代後半以降、高齢、障害、子供など、対象者別に制度化されており、昨今の社会情勢変化に十分に対応しきれない実情がある。</p> <p>これは制度・分野を超えた複合的な課題が顕在化しており、課題を抱えている人は、これまでの法制度、支援の枠組みに当てはまらないため、適切な支援につながらないケースが多く見られた。</p> <p>鹿追町ではこの重層的な支援を実施にあたり、令和3年4月から所管を超えて福祉、介護、住宅、生活、教育等の担当者を福祉重層的支援担当として兼務発令し、体制整備をいち早く実施した。各所管の課題の整理、共生社会構築に向けた施策の検討、情報提供といった諸問題に対応する画期的な取り組みと考える。</p> <p>1 福祉重層的支援として横断的な体制を実施してから2年以上経過し、その進捗状況及び効果について。</p> <p>2 重層的支援事業をさらに効果的に機能させるには、相談支援包括化推 進員の配置や多機関との連携が必要と考えるが、現在の状況は。</p>